



日時 : 2017年2月19日 {日}

集合 : 京急金沢文庫駅 10:00

コース : 金沢文庫駅→六国峠ハイキングコース→能見堂→金沢自然公園(昼食)→寄り道白山社
→関東学院大学→北朝比奈市民の森→鼻欠け地蔵→上行寺→金沢八景駅
22,000歩 15km (伊藤自宅含め25,500歩)

参加者 : 平石L・仲SL・中村SL 含め23名

平嶋・平石L・熊坂・仲SL・高橋文・伊藤真・青松秀・佐藤繁・斎藤優・新谷・中村年SL・平野
小林・河野・清水・森川・井内・栗田・山川・志村・武倉・青松美・塩川

天候 : 快晴

日本全国大雪に見舞われる中、関東地区は申し訳ない様な日本晴れの日曜日。体験済の「六国峠ハイキングコース」ですが、今日は逆回りです。初体験の寄り道があり、小生が3年間居住した石川県金沢と関係ある地名?そしてその根源「白山社」に参拝して驚き。広い敷地の関東学院大学敷地をぐるり一周散策。最後期待した「鼻欠け地蔵」のお出迎えにこれ又驚き、このレポートの写真と引用説明文でご覧下さい。

快晴に恵まれた、切通のアップダウンと尾根道歩き、マラソンシーズン、若いランナーとの出会いもありました。従来のハイキングに視点を変えた企画をされ、更に判り易い「横浜ガイドMAP」を配布され案内された平石Lに改めて厚くお礼申し上げます。最近はまだ歩くだけでなく、歴史を含めその奥を知りたく事前に調べた参加していますが、カメラレポーターをすると、忙しく芸術的風景ばかり撮る暇がありませんが、しかし後で纏める時思い出すのもこれ又良しとしています。

この雲一つない快晴青空の歓迎です！



「浅間神社」入口碑を見て、歴史学習。



1080年源頼朝御請して造営。袖ヶ浦入江に面した帷子川の河港として栄え、東海道五十三次の神奈川宿と程ヶ谷の間の宿。木花咲弥姫命。



駐車場で熊坂さんによるストレッチ。さあ～六国峠に上りましょう！

早速の登り開始です！



切通の登り道、昔は↓の様に四角で溝もあったと思うが、風化で丸くなっている。先頭平石し影を追い登る。



しばらく登ると平坦な道に出てホッと一息つくこの辺りは金網もなく、岩肌苔の風情が落ち着く。



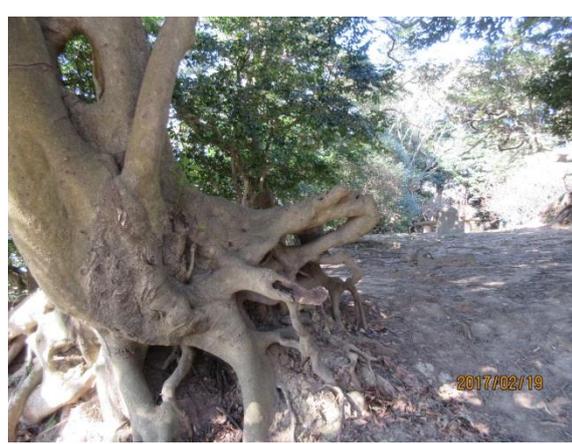
笹道歩きも気持ち良い。そして歩くと広場に出てきた。市街地と三浦アルプスが見えます。【能見堂跡】です。



能見堂跡標高60m
碑があるだけです。

井戸の跡。

こちらの根っこ歴史を語る？よく頑張っていますよ！



【能見堂跡】 10:30 説明看板がありますが、読みにくいので、要約すると下記のとおりです。(HPから引用)



能見堂は、寛文年間(1661~73)に、当時の領主久世大和守広之(くぜやまとのかみひろゆき)が、芝増上寺の子院を移設し、地蔵菩薩を本尊として再興した擲筆山(てぎひつざん)地蔵院の跡です。

明からの渡来僧、心越禪師(しんえつぜんじ)が故郷の景色を偲んで、ここから見た金沢八ヶ所の勝景を漢詩に詠んだことで、『金沢八景』の場所と名称が定まりました。

歌川(安藤)広重らが、これを題材に浮世絵を描いたことによって、能見堂は広く知られるようになりました。

現在、能見堂跡には享和三年(1803)に、江戸の庶民百数十人によって建てられた「金沢八景根元地」の石碑が残っています。これは江戸・保土ヶ谷・金沢・鎌倉・江ノ島の観光ルートへの証でしょう。

形良い木の枝の中に三浦アルプス

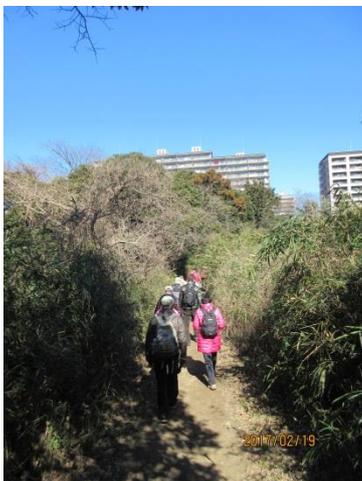
そして富士山が真っ白な頂上をわずかに見せました



金沢自然公園へ向かいます。



更に高い所にマンション、こちらもまだ登りますよ！平坦地、横浜横須賀道路上を歩いているところかな？



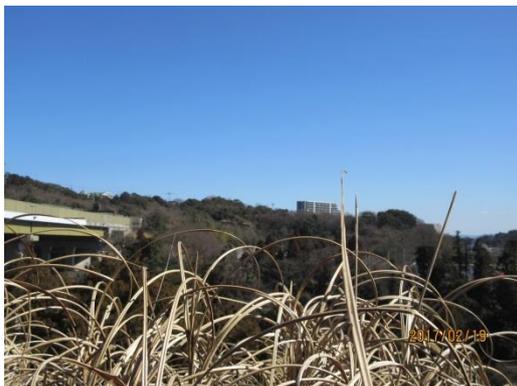
11:20

「能見台緑地」で給水タイム。この看板で現在地と今から行く「金沢自然公園」の学習。隣は能見台住宅街。



平石L「昼食場所の金沢自然公園はもうすぐですよ」この尾根は、北側「能見台」町と南側「釜利谷」町の境界です。標高65mのようです。

横浜横須賀道路を潜ります。先程休憩していた「能見台緑地頂上」



「金沢自然公園・動物園」ここから入る。



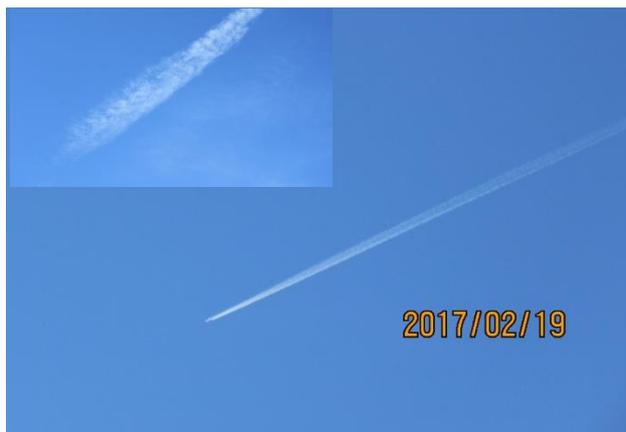
「ののほな館」ベンチで昼食 11:45~12:40 7,000歩



最高の昼食場所です。「缶ビール有ります！ウォーキング中、駄目ですよ！」



飛行機雲が沢山見れました。航空機通路のようです。スマホでうまく撮れましたか？



伊藤も証拠写真（ここでP 1 巻頭集合写真） 菜の花が傾斜面畑に満開！きれいです。まさしく春ですね！



正面入り口、以前来たのを思い出し



動物園前から下り、歩くスタイル決まっています！ 大型分譲地街を通り、更に斜面道路を下る。



外国風様橙色屋根がきれい



真黄色のミモザ満開で歓迎



「釜利谷緑道」を歩く。



横浜横須賀道路に沿った大和宅地の境目緑道。ここにお住の方はいいですね、最高の散歩道がすぐそばです。



ここから寄り道をします。関東学院大学キャンパスの近くです。

写真の左は急斜面で横浜・横須賀道路が走っています。

【白山社】石川県白山比咩神社（しらやまひめじんしゃ）総本山全国3，000社余りある。祭神は菊理媛神（くくりひめのかみ）、イザナギ、イザナミ。石川県白山の信仰から始まった。石川県金沢は芋ほり藤五郎の話で砂金が取れたから「金沢」の地名になったという説があるが？白山神社は全国に有り、横浜市金沢区との関係は？しかし、白山道（しらやまどう）はこの神社名からつけられたようです。（↓HPから）

白山道

白山道がいつ開かれ、いつ頃から白山道と呼ばれるようになったか明らかではありません。

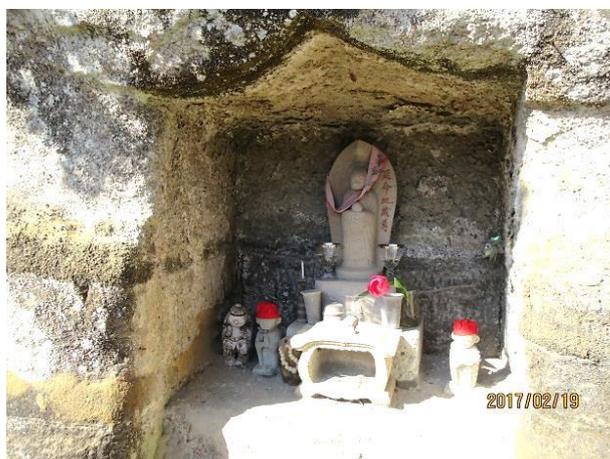
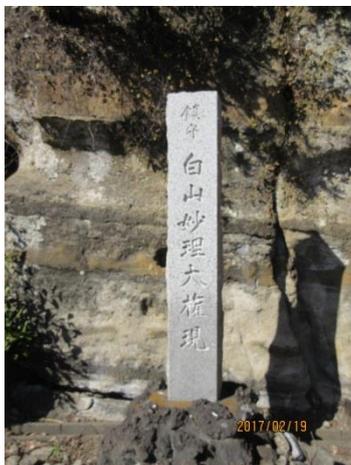
しかし、この道は少なくとも鎌倉時代中期には開かれたと思われます。

金沢北条氏の祖、北条実泰が、六浦庄の領主になったのは天仁元年(1224)と推定され、彼が六浦殿あるいは釜利谷殿と称されたのは釜利谷あたりに居館をかまえていたからだと思われます。

当時の一部分と思われるものが現在、手子神社-東光寺-白山社-磨崖仏の前を走っています。

その先は住宅や道路の建設のために破壊、中断してしまいましたが、本来は鎌倉まで達していました。

「白山妙現大権現」



小さな洞窟神社でしたが地藏さんが同居しておられるのもいいものです。

石段は急斜面です。

手摺を持っておりましょう！

「白山道奥崖仏」白山社は室町時代称名寺の管理下にあり、鎌倉の北条氏はこの辺りを通っていた説。

白山道奥崖仏

白山社は白山堂とも呼ばれ、南北朝～室町時代には称名寺の管理下におかれ、その末寺となっていました。堂社の旧位置は不明ですが、北条氏が鎌倉と金沢の称名寺とを山越えに往復する古道が、このあたりを通っていたことは疑いありません。この古道は「白山道」と呼ばれ、鎌倉時代後期に瀬戸橋ができる以前は、鎌倉と称名寺の往復に使われていました。この山腹に刻まれている磨崖仏は、その旧跡を推定するための好資料であり、周囲が削平されていますが、現存顔面長4メートル、中世末期の彫刻です。

また、応仁年間（1468）に鎌倉大塔宮からこの地に移った白山東光寺に関するものとすれば、御姿は薬師如来をかたどったのでしょうか。

■ 写真測量図



■ 推定復元図



2017/02/19 金沢区役所



看板横にある梅 寄り道から消防署前交差点に戻り、釜利谷6号緑地横の道を歩く。



平石L2016年4月に出来た「朝比奈北市民の森」へ行きます。関東学院大学傍で休憩。策の横を歩きます。

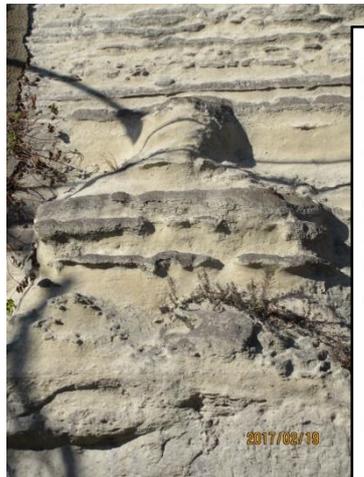


14:00 15,000歩

金網に引っかかった巨石。



期待の「鼻欠け地蔵」道路正面に渡り撮影するも?? イボミカンの歓迎



HPから引用した絵図と比較してみてください。

ここからバス予定のところ環状4号を歩きに決定。小泉又次郎誕生地碑

待従川？川に映る青空



「上行寺」茅葺山門



梅がきれい



本堂



六浦山(ろっぽざん) 上行寺(じょうぎょうじ) (日蓮宗)

はじめは真言宗で、金勝寺といました。
日蓮宗に改めたのは、中山法華経寺三世日祐上人でした。

日荷上人はもと六浦平次郎といい、
回船問屋を営み、六浦湊を支配する財力豊かな商人でしたが、
日祐上人に帰依し、出家して六浦妙法とか日荷上人と呼ばれました。

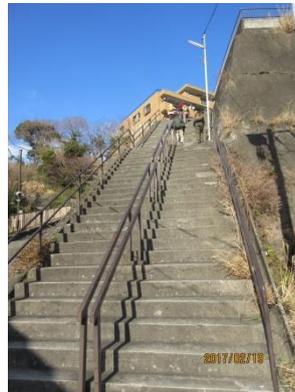
日荷上人が称名寺の和尚と仁王像を賭けて囲碁に勝った話や、
日蓮上人の船中間答の話など、歴史的逸話が伝えられています。

境内には、日荷上人が植えられたという樹齢600年もの榎の木や、
日荷上人の墓、牛馬六畜供養塔、船つぎの松などがあります。

本尊: 日蓮上人尊像(にちれんしょうにんそんぞう)
創建: 鎌倉末期~室町時代
開基: 日荷上人(にっかしょうにん)
開山: 日祐上人(にちゆうしょうにん)

HPからの履歴を見ると、日荷上人は六浦平次郎で
六浦湊の回船問屋と有り

「上行寺東遺跡」この急な石段を登ると上行寺の上に有り



上行寺東遺跡
中世鎌倉における重要な外港であった六浦を見おろせる小高い丘陵の先端部に位置する上行寺東遺跡は、昭和59年8月・12月と同61年7月~12月の二度にわたる発掘調査によって、鎌倉時代から室町時代初期にかけての「やぐら群」と「建物跡群」を主体とした遺跡であることが明らかにされました。
発見された遺構は、上・中・下段に分かれて存在し、やぐら43基、建物跡7基、墓壇18基、井戸2基、池状遺構と思われる不定形土壇1基などで、それらとともに多量の陶磁器類、石塔類や古銭、銅製品などの遺物が出土しました。



上行寺東遺跡1・2・3号やぐら
やぐらは、鎌倉・室町時代に鎌倉をとりまく山腹に、方形に掘り込んだ火葬骨を納めたお基で、おもに武士や僧侶などが葬られたといわれています。床の中央には納骨穴が掘られ、供養のための石塔婆(五輪塔・宝篋印塔)が残されていたり、壁面に仏像を浮彫りにしたものもあります。
ここに保存されたやぐら群(手前より3・2・1号)は、本道跡の下段に位置するものです。1号は視室をもち、納骨穴から火葬骨とともに瀬戸焼の小壺片が出土しました。また1・3号の入口には、扉を支えたほぞ穴があげられています。

各やぐらの規模	
1号やぐら(視室)	間口2.38m×奥行2.01m×高さ1.55m
2号やぐら	間口1.03m×奥行0.72m×高さ1.32m
3号やぐら	間口1.48m×奥行0.71m×高さ1.20m
3号やぐら	間口1.45m×奥行0.01m×高さ1.63m



1954年後ろのマンションを建てるとき発見されて、保存運動起きたが、当時文化財に指定されておらず撤去され、後に現在の隣接地にレプリカとして復元された。源頼朝が文治年間(1185~1190)六浦沖に創建した浄願寺の跡というのが有力な説になっている様です。(HPより)

見学した12名、集合写真（伊藤も入れて載きました）



東上行寺遺跡から見下ろした上行寺。この後金沢八景駅はすぐ近くで、15:10到着、工事中でした。



工事中の2F連結道路支柱基礎。



平石L「お疲れ様でした。歩数確認します。22,000歩 15km
とします。ここで解散します。」

時間も早くアフターの店を探すも、飲食店街有ったが、今日は日曜日で閉店中。
Aさんラーメン屋を見つけ餃子と卵などラーメン具をつまみに折衝、
生ビール有り、平石L慰労を兼ねて乾杯し、楽しくそして格安で、反省会と
懇親会を終えました。

編集後記：今年3回目の参加でした。3/12（日）曾我丘陵も日本晴れの富士山、相模湾、梅林と河津桜を満喫しましたが、今日も快晴で、六国峠ハイキングコースと後半白山道奥崖仏・白山社に寄り道しこの地の歴史を探検出来ました。小生も鎌倉地区は別のグループと30数回来ており、その都度視点を変えて歩いておりましたが、今日の後半は初体験でした。改めて平石Lに厚くお礼申し上げます。

いつもの拙いボケ防止用の日記帳の「メモと写真」です。誤記や失礼な記述があるかもしれませんが悪しからずお許しの程。説明文はHP他から引用しました。